

## 編集後記

日本溶接協会 30 年史は、「近代溶接の歩み」という副題の元に昭和 54 年 11 月 24 日に刊行され、さらに 40 年史は、「溶接この 10 年の歩み」と題し平成元年 11 月 24 日に刊行された。

以来 10 年を経て、日本溶接協会創立 50 周年を迎えるにあたり、平成 11 年 11 月に記念事業を行うことが、平成 9 年 7 月 30 日の理事会で決定し、「50 周年記念事業委員会」が設置された。その下に「記念行事実行委員会」、「表彰委員会」、「50 年史編集委員会」を置くことが合わせて決定された。

それを受けて「50 年史編集委員会」の準備委員会が 10 月 3 日に開催され、次の決定を行った。「社団法人 日本溶接協会 50 年史」とし、設立から 50 年間に纏めることとした。また、協会が果たしている社会的貢献を積極的に取り入れ、協会が現在おわれている JAB 対応の要員認証や ISO 整合など国際対応の記事を重点的に乗せること、またそれに関連した座談会を開催するなど、編集委員の人選を行った。

12 月 11 日に第 1 回の編集委員会を開催した。この日に全体構想、目次案、編集制作進行計画と、各編の担当者の決定を行い、この日が実質上の編集・執筆開始日となった。その後、平成 10 年になって総論打合会（2 月 3 日）、「研究委員会」打合会（3 月 3 日）、「部会編」打合会（3 月 16 日）、各部会・研究委員会の執筆者への説明会（4 月 21 日）、「検定・認定活動」編集（5 月 18 日）、「特別委員会活動」編集（6 月 3 日）等の各種の会合を重ね、50 年史は 15 編に分けることとするなど全体構想が決定した。原稿の締め切りは 10 月末とし、各執筆者の原稿を待つだけとなった。

原稿締め切りまでは、時間的にかなり余裕をみていたが、実際には原稿の提出がかなり遅れるものもあり、また原稿の内容にもかなりばらつきがあった。編集委員による各編査読ならびに原稿全体の査読が精力的に行われた。その結果、平成 11 年 3 月には座談会及び総論を残して、ほぼ終了した。

座談会は 5 月 30 日に、編集委員長司会の元に 3 時間あまりにわたって行われた。その内容は本文を見ていただくことになるが、新しい世紀を迎えての国内外での溶接界の置かれた立場や日本溶接協会に対する期待等が、熱っぽく語られた。また、50 年史で根幹をなす総論は最も多くの会合と議論が重ねられたが、8 月末をもって終了し、これですべての原稿の査読校正が終了した。

今回の校正ゲラならびに 30 年史、40 年史を見ると、50 年間溶接界も大きな激動の時代を歩んだかが分かる。30 年史では戦後遅れていた溶接技術を世界水準以上に発達させた歴史、40 年史ではエレクトロニクスや新素材の発展に対応した新技術の歴史、そしてここ 10 年はバブル崩壊による経済全体の不況に伴う産業構造の変化への対応と世界的な経済体制の変化への対応等などである。目前に迫った 21 世紀には経済や技術の革新に対してどのような対応をとればよいであろうか。若い人への大きな課題であろう。

この 50 年史の刊行にあたっては、執筆をされた部会、研究委員会の方々またその他多くの方、ならびに執筆及び査読にあられた編集委員の方々に厚く御礼申し上げます。とくに、森前専務理事、尾上久浩、小林卓也、中村春雄、野村博一の各氏に対しては献身的な努力をしていただき、深甚なる謝意を表したい。

また、最後に制作を担当した産報出版の馬場信氏と協会の事務局の方々に感謝申し上げます。  
(恩澤)